

出雲市都市計画道路（医大前新町線3工区）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

神門寺付近遺跡 I

2009年3月

出雲市教育委員会

序

本書は、出雲市都市整備部街路課から委託を受け、平成 20 年度に実施した出雲市都市計画道路（医大前新町線 3 工区）道路改良工事に伴う神門寺付近遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

神門寺付近遺跡は、出雲市塙治町の神門寺の周囲に確認されている遺跡です。神門寺は塙治地区で最も古くから知られる寺院で、境内は、昭和 35 年、「神門寺境内廃寺」として市指定文化財（史跡）に指定されています。

今回の調査では、神門寺境内廃寺に直接関連する遺構は確認できませんでしたが、古瓦片、陶磁器が出土し、神門寺境内の寺域を知るうえで貴重な資料を得ることができました。

本書が地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いに思います。

最後になりましたが、発掘調査と報告書作成にあたりご協力いただきました地元住民の皆様や、関係者の皆様に厚くお礼申しあげます。

平成 21 年 3 月

出雲市教育委員会

教育長 黒目俊策

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 調査の結果	7
第3章 まとめ	11

挿図目次

図1 神門寺周辺の主要遺跡	2
図2 調査区配置図（S 57年度・S 58年度・S 59年度・H 20年度）	5
図3 神門寺境内廃寺出土丸瓦 凸面拓影図	6
図4 神門寺境内廃寺出土平瓦 凸面拓影図	6
図5 調査位置図（H 20年度）	7
図6 調査位置及び土層堆積柱状図	8
図7 調査2区 溝状・手土状遺構及び土層堆積状況	9
図8 出土瓦実測図	10

図版目次

図版1 神門寺周辺遠景（南から）（昭和 58 年度）	15
神門寺付近遺跡調査前遠景（南から）（平成 20 年度）	
図版2 2区 調査前状況（南から） 2区 土手状遺構土層堆積状況（北東から）	16
図版3 2区 溝状遺構（南東から） 2区 調査後（北から）	17
図版4 出土遺物 神門寺之絵図	18



例　言

1. 本書は平成 20 年度に出雲市教育委員会が実施した、出雲市都市計画道路（医大前新町線 3 工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2. 調査は下記の体制、期間で実施した。

調査地及び調査面積　出雲市塩冶町 8264-4 ほか　120 m²

調査期間　平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

調査体制

事　務　局　花谷　浩（出雲市文化企画部次長兼学芸調整官）

石飛幸治（　同　　文化財課長）

景山真二（　同　　埋蔵文化財係長）

調　査　員　原　俊二（　同　　主任）

曾田辰雄（　同　　主事）

調査補助員　佐藤暁子（　同　　臨時職員）

勝部真紀（　同　　臨時職員）

幸村京子（　同　　臨時職員）

3. 発掘調査ならびに報告書作成にあたっては、次の方々や機関にご指導、ご協力を賜った。記して謝意を表させていただく。（順不同・敬称略）

今岡　清（出雲塩冶誌編集委員会編集長）、池淵俊一（島根県教育庁文化財課）、林　健亮（島根県教育庁文化財課）、川上　稔（出雲市立図書館）、西尾克己（島根県古代文化センター）、阿部賢治（島根県埋蔵文化財調査センター）、株式会社原田水道工業

4. 本書の執筆・編集は、花谷の指導のもと曾田が行った。

5. 本書で用いた XY 座標は世界測地系である。レベル高は海拔高を示す。

6. 本書で掲載した写真的撮影については、遺跡遠景写真と遺物写真を坂本豊治（出雲市文化財課主事）が、その他を曾田が撮影した。

7. 発掘調査、遺物整理については、次の者が従事した。

河井幸夫、杉原秀昌、鵜口令子

8. 本報告書掲載の遺物及び実測図、写真は出雲市教育委員会が保管している。

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

出雲市が計画する医大前新町線道路改良工事は、その事業区域が神門寺付近遺跡の範囲内であることから、文化財保護法第94条第1項に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地内における上木工事の通知が、出雲市都市整備部街路課（以下「街路課」という）から鳥根県教育委員会へ平成20年3月に提出された。

出雲市教育委員会は、街路課から事前の発掘調査の依頼を受け、平成20年4月1日から平成20年7月23日まで現地調査を実施した。

調査区は医大前新町線の拡幅に伴う範囲で、市道塩治1号線の南側の一部分と、医大前新町線の東側が対象地である。神門寺境内廃寺範囲の東南部にあたる。本年度工事対象面積は東西7m、南北90mの630m²で、そのうち調査が可能な約120m²について発掘調査を実施した。

出雲市教育委員会では、昭和35年に市指定史跡となった「神門寺境内廃寺」の周辺を、昭和57年度（1983）から3カ年間にわたり国庫補助事業によって調査しており、基壇を発見し古代寺院の遺構の一部を確認している。これまでの調査については、概要を第3節で触れる。

第2節 位置と環境

出雲平野は斐伊川と神戸川によって形成された沖積平野で、中国山地と鳥根半島に南北を挟まれており、東方は宍道湖に、西方は日本海に開けている。

出雲平野での遺跡の初現は菱根遺跡、上長浜遺跡、三田谷I（27）・III遺跡、上ヶ谷遺跡、築山遺跡（34）、矢野遺跡等が知られている。神門寺周辺でも縄文土器が出土しており、古くから人々の営みがあったことが分かる。

弥生時代にもこれらの遺跡は継続して営まれ、弥生時代中期から後期になると遺跡が著しく増加する。下古志遺跡（5）、天神遺跡（12）などの大規模集落が営まれ、弥生時代後期には、西谷墳墓群（28）として知られる大型の四隅突出型墳丘墓が西谷丘陵に築造されている。

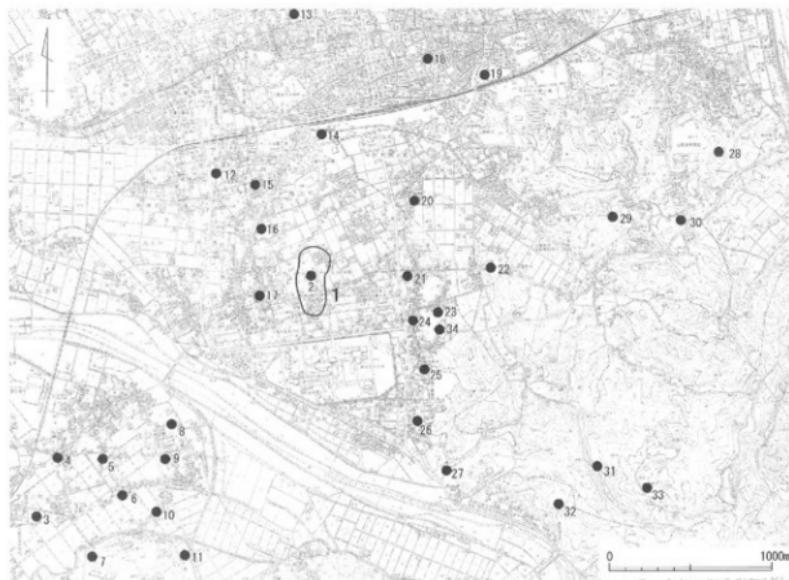
古墳時代になると出雲平野の北側に前末期の大寺1号墳、神西湖東側周辺に山地古墳、浅柄II古墳や間谷東古墳といった小型の古墳が築造される。塩冶地域、神戸川右岸には古墳は知られていない。

古墳時代中期の古墳は、池田古墳、大形墳丘を持つ北光寺古墳、西谷15号墳等が確認されている。後期には古墳の数が増加する。前期には古墳がみられなかった神戸川右岸には、鳥根県下最大級で、出雲西部の首長墓と考えられる今市人念寺古墳（19）が築造される。続いて、次の首長墓と考えられる上塩冶築山古墳（23）が知られ、7世紀に入ると石棺式石室の影響を受けた上塩冶地蔵山古墳（25）が築造され、上塩冶横穴墓群などの横穴墓群が造営されるようになる。

また、神戸川左岸には、妙蓮寺山古墳（7）、放レ山古墳（11）、宝塚古墳（3）などの他に、刈山古墳群、井上横穴墓群、神門横穴墓群などが築かれる。

奈良・平安時代の遺跡には、出雲国神門郡家間連の遺跡である古志本郷遺跡（8）、神門郡の役所跡と考えられる三田谷Ⅰ遺跡（27）、掘立柱建物跡が検出された天神遺跡（12）、大型倉庫群が検出された後谷遺跡などがある。仏教関連遺跡としては神門郡朝山郷新造院と考えられる神門寺境内廃寺（2）、神門寺付近遺跡（1）の他に長者原廃寺（30）などが知られている。また、光明寺3号墓（32）、菅沢古墓（29）等では火葬墓が確認されている。

中世の遺跡としては、12世紀後半～15世紀の館跡が確認された藏小路西遺跡、築山遺跡（34）、この他に、渡橋沖遺跡、矢野遺跡、下古志遺跡（5）等がある。



- 1. 神門寺付近遺跡
- 2. 神門寺境内廃寺
- 3. 宝塚古墳
- 4. 正蓮寺北遺跡
- 5. 下古志遺跡
- 6. 田畑井闘
- 7. 妙蓮寺山古墳
- 8. 古志本郷遺跡
- 9. 大堀古墳
- 10. 古志遺跡
- 11. 放レ山古墳
- 12. 天神遺跡
- 13. 観音寺
- 14. 善行寺遺跡
- 15. 淨音寺
- 16. 高西遺跡
- 17. 塙治小学校付近遺跡
- 18. 築山古墳
- 19. 今市大念寺古墳
- 20. 角田遺跡
- 21. 宮松遺跡
- 22. 塙治神社
- 23. 上塙治築山古墳
- 24. 塙治官館跡
- 25. 地蔵山古墳
- 26. 半分古墳
- 27. 三田谷Ⅰ遺跡
- 28. 西谷墳墓群
- 29. 菅沢古墓
- 30. 長者原廃寺
- 31. 大井谷Ⅱ遺跡
- 32. 光明寺3号墓
- 33. 般若寺
- 34. 築山遺跡

図1 神門寺周辺の主要遺跡

さて、神門寺（出雲市塩治町 821 所在）について、「雲陽誌」によれば「天應元年建立故に天應山といふ」と記してあり、神門寺境内地にある神門寺境内廃寺（2）は最古の寺院のひとつと考えられる。神門寺境内廃寺（2）の周囲に広がる神門寺付近遺跡（1）の周辺について見てみると、天神遺跡（12）、塩治小学校付近遺跡（17）、上塩治築山古墳（23）、築山遺跡（34）、角田遺跡（20）、宮松遺跡（21）、古志本郷遺跡（8）、下古志遺跡（5）等多くの遺跡が存在している。これらの遺跡の周辺は、標高 7 m ~ 9 m の微高地となっており、古墳時代後期頃から多くの遺跡が見られるようになる。

神戸川の右岸には、上塩治築山古墳（23）、神門郡の役所跡と考えられる三田谷 I 遺跡（27）、神門郡朝山郷新造院と考えられる神門寺境内廃寺（2）が所在し、左岸には妙蓮寺山古墳（7）、出雲国神門郡家閑連の遺跡である古志本郷遺跡（8）が所在する。

このように神戸川を挟んで、古墳時代から奈良時代にかけて継続して右岸と左岸にはそれぞれ遺跡が存在しており、この地域の最古の寺院のひとつとして知られる神門寺境内廃寺（2）も、その歴史的位置付けは大きい。

【参考文献】

- | | |
|------------------------------|--|
| 出雲市教育委員会 | 1956 年 『出雲市の文化財』－出雲市文化財報告書調査報告書第一集 |
| 出雲市教育委員会 | 1985 年 『神門寺境内廃寺』 |
| 出雲市教育委員会 | 1993 年 『出雲市遺跡地図』 |
| 島根県教育委員会 | 1999 年 『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財調査報告書 V 三田谷 I 遺跡』 |
| 島根県教育委員会 | 2000 年 『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財調査報告書 X 三田谷 III 遺跡』 |
| 出雲市教育委員会 | 2000 年 『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 II 光明寺 3 号墓・4 号墓』 |
| 出雲市教育委員会 | 2001 年 『・絞糸道多伎江南山武藏改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 下古志遺跡』 |
| 島根県出雲市木建築事務所・出雲市教育委員会 | 2002 年 『市道山陰木線北沿線設置予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 天神遺跡（第 10 次発掘調査）』 |
| 島根県教育委員会・国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所 | 2003 年 『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 X VI 古志本郷遺跡 V 出雲国神門郡家閑連遺跡の調査』 |
| 出雲市教育委員会 | 2005 年 『県道山雲三刀屋線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 築山遺跡 I』 |
| 出雲市教育委員会 | 2007 年 『県道出雲二刀屋線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 築山遺跡 II』 |
| 出雲塩治誌刊行委員会 | 2009 年 『出雲塩治誌』 |

第3節 これまでの調査

神門寺境内地に所在する神門寺境内廃寺は、昭和35年（1960）12月に出雲市指定文化財（史跡）に指定されている。神門寺の境内から古代瓦が出土することや、神門寺が初期の仏教文化を知るうえでも貴重な存在であることは古くから指摘されていたが、神門寺境内廃寺の遺構は確認されておらず、昭和57年（1982）から昭和59年（1984）の3カ年にわたり、国庫補助事業によって発掘調査が実施されている（図2）。

- ・昭和57年（1982）（1次調査） 地形測量、トレント調査5箇所（T1～T5）
第5トレントから大溝検出、江戸時代の古絵図にある大溝と推定。
- ・昭和58年（1983）（2次調査） ボーリング調査20箇所、トレント調査7箇所（T6～T12）
トレント調査で寺院遺構は検出されず、ボーリング調査でも大溝の存在は確認できず。
- ・昭和59年（1984）（3次調査） トレント調査6箇所（T13～T22）

本堂北側の土塁は江戸時代の築造と判明。庫裡北側の礎石下に版築された基壇を確認する。

遺構について

3カ年に渡り、境内の北側・東側、本堂の北側・西側、庫裡の北側、弘法堂の北側でトレント調査及びボーリング調査を行っている。なかでも、3次調査における礎石下での版築された基壇の検出と、礎石が原位置を保ったままであることが明らかになったことは大きな成果である。また、1次調査での大溝の検出は、江戸時代の古絵図にある溝であると推定され、江戸期の寺域を知るうえで重要な発見である。

これらの結果から、寺域は現在の神門寺境内の北東部を中心としていると考えられるが、その広がりや伽藍配置については明らかではない。

出土遺物について

上飾器、須恵器、古代瓦が出土している。瓦のうち軒丸瓦は3種類、このうち複弁文の2種に水切りがついている。軒平瓦は確認されていない。

また、丸瓦・平瓦については、それぞれ数種類のタイプが出土している。今回の調査で出土した丸瓦・平瓦の位置づけを行う必要があったため、再整理して分類し、その一部を本報告書に掲載した。

丸瓦は凸面の調整から5類に分けた。1類は格子叩き後スリケシ調整、2類はタテ縄叩き（スリケシなし）、3類は縄叩き後スリケシ調整、4類はスリケシ調整、5類はタテ縄叩きスリケシ調整である（図3参照）。

平瓦はその作成方法と凸面の叩き等の調整から7分類とした。1類は桶巻き作りで凸面が格子叩き後スリケシ調整、2類は桶巻き作りで凸面が格子叩きのみのもの。3類は桶巻き作りで、凸面がスリケシ調整されているものである。4類は桶巻き作りで、凸面がタテ縄叩きのもの。5類は一枚作りで凸面がタテ縄叩きのもの。6類は一枚作りでヨコ縄叩きのもの。7類は一枚作りで粗い格子叩きのものである（図4参照）。このうち、丸瓦1類と平瓦1・2類、丸瓦2類と平瓦4類はセット関係になるものである。神門寺創建期の瓦は丸瓦1・2類と平瓦1～4類と考えられる。

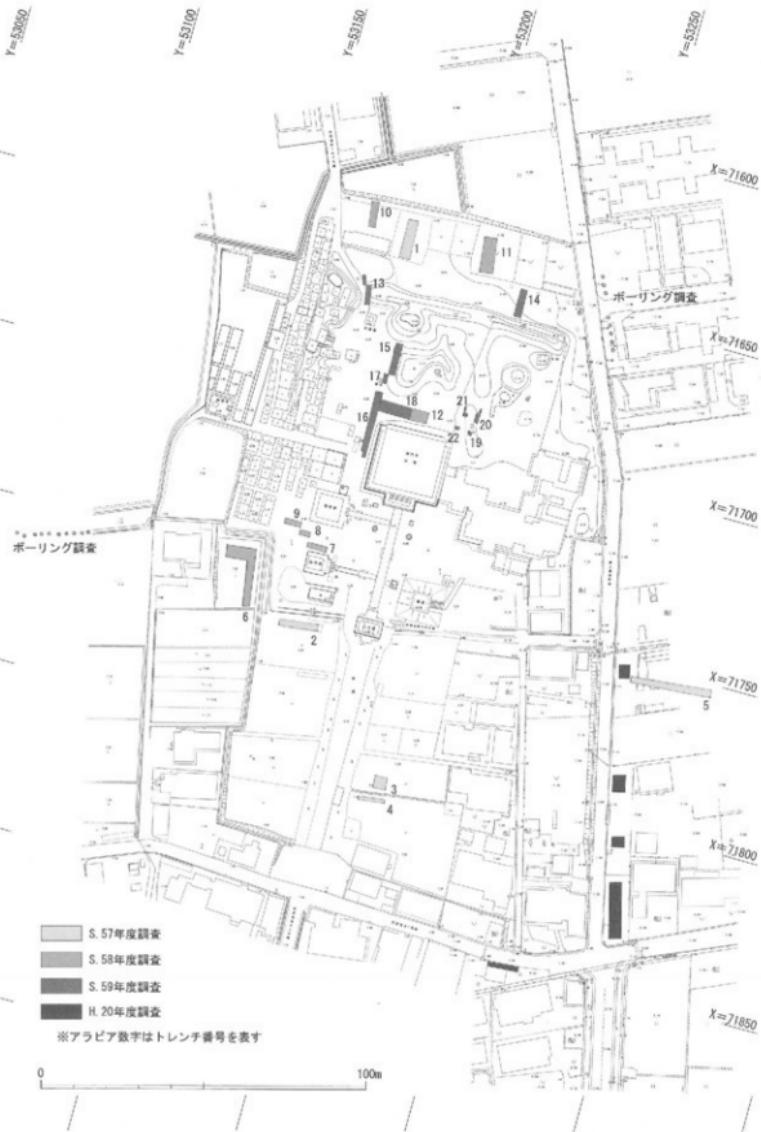


図2 調査区配置図（S 57 年度・S 58 年度・S 59 年度・H 20 年度）

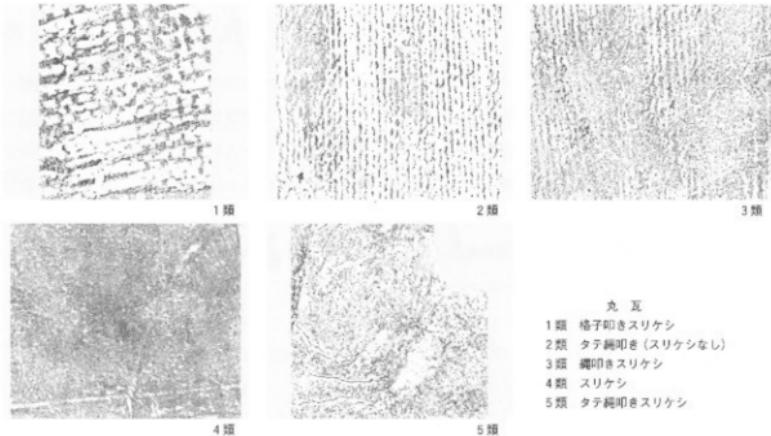


図3 神門寺境内廃寺出土丸瓦 凸面拓影図 (S=1:2)

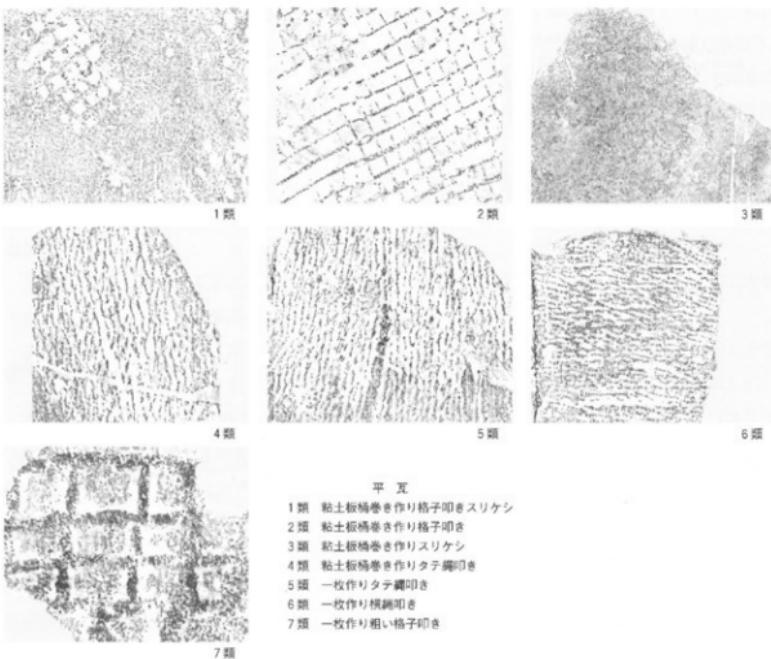


図4 神門寺境内廃寺出土平瓦 凸面拓影図 (S=1:2)

第2章 調査の結果

第1節 調査の概要

調査地は市道拡幅予定地の田・畑・雜種地である。調査区は南側から順に1~3区とし、市道塩治1号線の南側を1区、医大前新町線の東側を2区、3区とした。3区は3箇所に分けて実施した(図5)。土層堆積状況は調査2区から3区にかけ、炭化物を含む固くしまった青灰色砂質土の堆積と、有機物を多く含む堆積土を確認した。

調査1区(図5・図6)

調査地は道路脇の畠と車庫跡であった。ここに長さ9.0m×幅1.2mの範囲を設定し、調査を行った。土層堆積状況は造成土以下、暗灰褐色砂質土、暗灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土が堆積していた。

地表面から2m掘り下げ、最深部標高6.15mまで掘削したが、遺構は確認できず、遺物も出土しなかった。

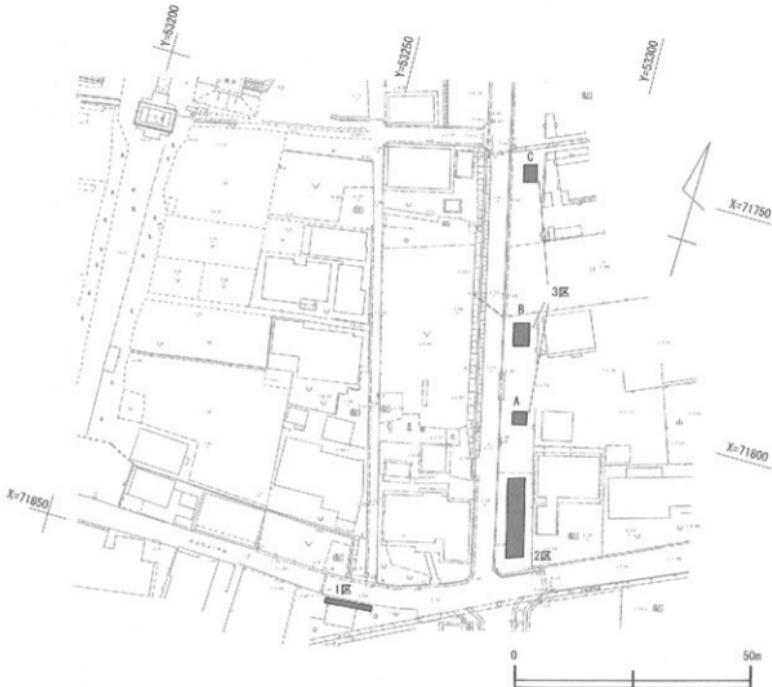


図5 調査位置図 (H 20 年度) (S=1:1000)

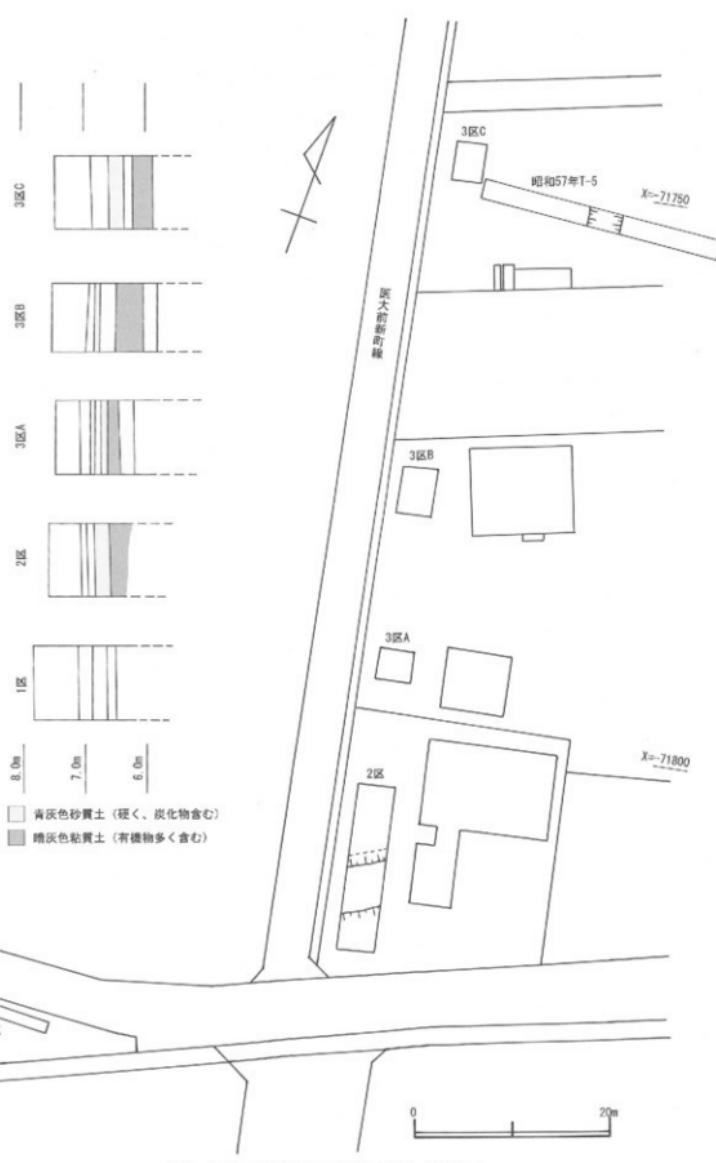


図6 調査位置及び土層堆積柱状図（模式図）

調査2区（図6）

調査地は道路沿いの雑種地である。長さ17.0m×3.5mの範囲を設定し、調査を行った。土層堆積状況は大きく分けると造成土以下、旧水田の床土、青灰色砂質土である。調査の結果、溝状遺構1基と土手状遺構1基を検出した。

溝状・土手状遺構（図6・図7）

調査区の南側において、掘り込みを検出したが、この掘り込みの北端しか確認できず、幅は不明。溝ではなく川や沼地等の北岸である可能性も否定できないが、ここでは溝状の遺構として報告しておく。

深さは1.0m、最深部は標高5.9mである。

上層は、木の葉や葦の有機物が多く堆積しており、湿地となっていた時期があることが窺える。遺物が出土していないことから時期は不明である。

溝状遺構の北側には青緑灰色粘質土が40cm堆積した高まりがあり、この堆積上は平面的に東北東に延びる。上層の水田床土や造成時に削平されているため本来の高さは不明であるが、残存する幅3.5m、長さ3.4mを測る。この青緑灰色粘質土の北側には松の実や桜の根などが混じった有機物層が土手状遺構に沿うようにして堆積しており、土手状遺構と並行して植栽があった可能性がある。

土手状遺構からの出土遺物は、青緑灰色粘質土層から丸瓦片が1点出土している。この丸瓦は桶巻き作りの行基式のものである。凹面は布目痕が確認でき、模骨状の圧痕も確認できる。凸面は刷り消し調整である。

調査3区（図5）

トレンチ状に掘削し3箇所に分けて調査を行った。それぞれ縦約3m~5mの大トレンチである。最深部は約2mまで掘り下げたが、遺構は確認できなかった。土層堆積状況は、大きく分けると、造成土以下、青灰色砂質土、暗灰色粘質土、灰色粘質土、明灰色粘質土となる。青灰色砂質土は標高6.5m~7.0付近に堆積しており、北に行くほど低く堆積している。遺物は灰色粘質土層から布目瓦片が2点出土した。瓦はいずれも平瓦で、裏面に布目痕、表面に繩叩きが確認できる。摩滅がひどく、焼成はやや不良である。

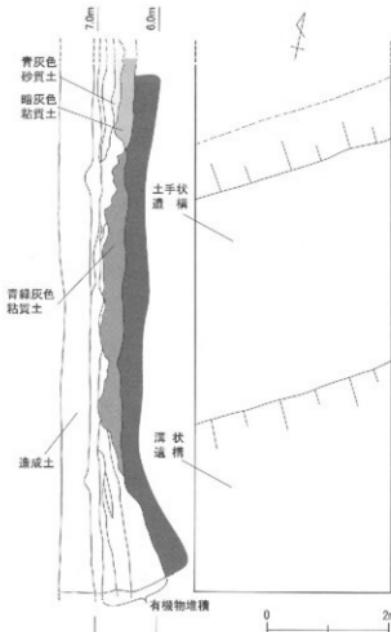


図7 調査2区 溝状・土手状遺構及び
土層堆積状況 (1:80)

第2節 出土遺物について

瓦について（図7・図8）

瓦は、丸瓦と平瓦の破片が3片出土しており、実測可能な各1片を掲載した。丸瓦片は調査2区の青緑灰色粘質土層から出土した。

丸瓦片は、桶巻き作りで凸面はスリケシ調整、凹面は布目痕が残り、模骨状の圧痕が確認できる。厚さは1.8cmを測る。焼成は良く、須恵質で青灰色である。これは神門寺境内廃寺出土の瓦の分類の中では丸瓦4類に該当するものである（図4参照）。

平瓦片は調査3区の粘質土から出土した。調整は凸面には縄タタキの痕が残り、凹面は摩滅している。凹面は摩滅しており、桶巻き作りか一枚作りかは不明であるが、縄目痕の特徴から神門寺境内廃寺出土瓦の平瓦5類に該当するものであると考えられる。

陶磁器について（写真図版4）

陶磁器は数点が出土している。いずれも破片で実測には及ばないものであったが、大きさのあるものは写真図版に掲載した。

図版4-1は、口径12cmを測る波佐見焼の丸型皿である。17世紀～18世紀初頭にかけてのものと考えられる。見込は蛇ノ目釉ハギが見られる。2は、肥前系磁器の丸碗の破片である。17世紀末～18世紀初頭にかけてのものである。3は肥前系陶器の碗の破片である。17世紀～18世紀のものと考えられる。4は、青磁の碗である。15世紀～16世紀、中国龍泉窯のものと考えられる。

このほか、掲載しなかったが、16世紀頃の備前焼のすり鉢片、16世紀の白磁片等が数点出土している。

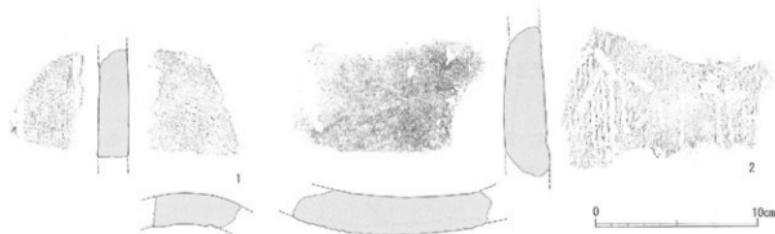


図8 出土瓦実測図（1 丸瓦・2 平瓦）（S=1:3）

第3章 まとめ

神門寺付近遺跡は、神門寺を中心とする南北600m、東西約300mの範囲として知られている。この遺跡の調査によって、神門寺境内庵寺の寺域について検討することができる。

今回の調査では、溝状の遺構・土手状の遺構を確認した。溝状の遺構は時期や、その幅及び延長がどこまで広がるのか不明である。しかし、昭和57年の第1次調査において神門寺東側で検出された、南北に流れていたとみられる大溝となつがっていた可能性がある。また、明治9年（1876）の下塙治村道水路図から神門寺の周囲に多くの用水路が整備されていたことがうかがえることから、溝状遺構はこの用水路の一部であることも考えられる。

上層堆積状況からみてみると、調査3区では、暗灰色粘質土、灰色粘質土等、昭和57年度の第1次調査の上層と同様の堆積がみられたが、神門寺境内庵寺に直接関係のある遺構については検出できなかった。また、本調査で確認した青灰色砂質土は神門寺周辺に広がっていることが確認できたため、この堆積土が境内と関係があるかどうか、今後の調査と共に検討したい。

一方、遺物について考えてみると、出土した瓦はわずかであったものの、凹面がスリケシ調整の丸瓦が出士した。これは、神門寺境内庵寺出土の丸瓦4類にあたることがわかった。（図3参照）

遺物は少量であったが、今後調査が北に展開していくことを考えると、軒丸瓦、軒平瓦等の遺物が出士する可能性は高い。

冒頭述べたように、神門寺境内庵寺の寺域を知るうえで、神門寺周辺遺跡の調査は極めて重要な意味を持つ。これまでの神門寺境内庵寺の調査を再整理し、今後の神門寺付近遺跡の調査結果を総合的に判断することで、神門寺の歴史的位置づけを示すことが可能になると考えられる。

さらには、出土瓦を再整理し、水切り瓦、軒丸瓦等の分類検討を行うことは、他地域の寺院との関係や地域間の工人の交流等を研究する手掛かりになる。引き続き、今後の神門寺付近遺跡の調査とともに総合的に検討していくことが必要である。

【参考文献】

- 出雲市教育委員会 1956 「出雲市の文化財」 -出雲市文化財報告書第一集
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館 1976 「山陰の仏教考古」
三次市教育委員会 1980 「備後寺町庵寺」 -推定三谷寺跡1次発掘調査概報-
広島県草戸町大字町遺跡調査研究所 1981 「備後寺町庵寺」 -推定三谷寺跡2次発掘調査概報-
三次市教育委員会 1982 「備後寺町庵寺」 -推定二谷寺跡3次発掘調査概報-
出雲市教育委員会 1983 「神門寺境内庵寺」 -第一次発掘調査概報-
出雲市教育委員会 1984 「神門寺境内庵寺」 -第二次発掘調査概報-
出雲市教育委員会 1985 「神門寺境内庵寺」
島根県教育委員会 1985 「風土記の丘内地内遺跡発掘調査IV」 -島根県松江市山代町所在・四王寺跡-
島根県教育委員会 1988 「風土記の丘内地内遺跡発掘調査V」 -島根県松江市山代町所在・四上寺跡-
島根県教育委員会 2004 「風土記の丘内地内遺跡発掘調査X」 -島根県松江市山代町所在・山代郡南新造院（四王寺）跡-
出雲塙治説刊行委員会 2009 「出雲塙治説」

写 真 図 版



神門寺周辺遠景（南から）（昭和 58 年度）



神門寺付近遺跡調査前遠景（南から）（平成 20 年度）



2区 調査前状況（南から）



2区 土手状造構土層堆積状況（北東から）



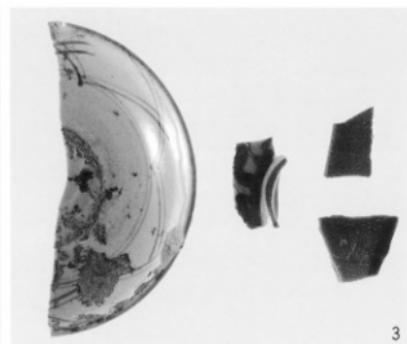
2区 溝状造構（南東から）



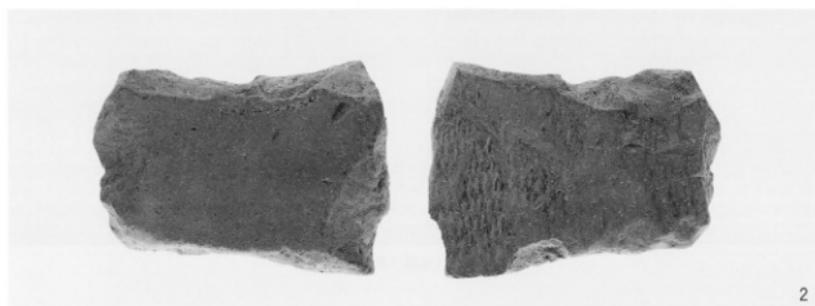
2区 調査後（北から）



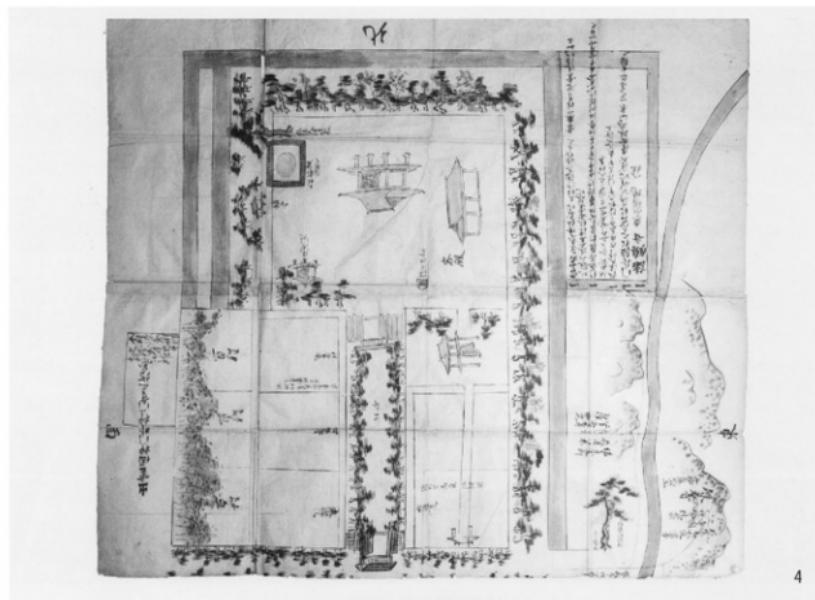
1



3



2



4

1 丸瓦 2 平瓦 3 陶磁器 4 神門寺之繪図

報告書抄録

ふりがな	かんどじふきんいせき いち						
書名	神門寺付近遺跡Ⅰ						
副書名	出雲市都市計画道路（医大前新町線3工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	出雲市の文化財報告						
シリーズ番号	9						
編著者名	曾田辰雄						
編集機関	出雲市文化企画部文化財課						
所在地	〒693-8530 島根県出雲市今市町70 TEL 0853-21-2211（代）						
発行年月	平成21年（2009年）3月						
所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
神門寺付近遺跡	島根県 出雲市 塙治町 8264-4ほか	32203 W146	35° 35' 13"	132° 75' 31"	H20.4.01 H21.3.31	120 m ²	出雲市都市 計画道路（医 大前新町線 3工区）道路 改良工事
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
神門寺付近遺跡	寺院跡 散布地	奈良時代	溝状遺構 土手状遺構	瓦	古代瓦が出土。 溝状の遺構を確認。		
要約	本書は平成20年度に実施した、神門寺付近遺跡の調査成果を収録している。神門寺境内廐寺に直接関係する遺構は確認できなかったが、神門寺境内廐寺に関わる古瓦が出土した。						

出雲市の文化財報告 9

出雲市都市計画道路（医大前新町線3工区）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

神門寺付近遺跡 I

平成21年（2009）3月31日

編集 出雲市 文化企画部 文化財課
出雲市今市町70

発行 出雲市教育委員会
出雲市今市町70

印刷 株式会社報光社
出雲市平田町993

